【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】令和2年3月12日(2020.3.12)

【公表番号】特表2020-503501(P2020-503501A)
【公表日】令和2年1月30日(2020.1.30)
【年通号数】公開・登録公報2020-004
【出願番号】特願2019-527377(P2019-527377)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｄ　3/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｄ　3/02　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】令和1年12月16日(2019.12.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１９】
そのような正規化によらないと、ジョーが自身の椅子、スマートスケール、及び医者のスケールからの体重データをマージする場合に、ジョーは、よって、現実を反映していないかもしれない自身のマージされたデータにおいて（例えば、体重増加及び減少において）時々幅広い変動を受け入れる可能性がある。例えば、スマートスケールとオフィスチェアとの間には一定のオフセット（例えば、２ポンド）が存在することがある。ジョーは、データをマージすることよりむしろただ１つのセンサを使用することによって、上記の正規化の欠如に対処することができ、あるいは、ジョーは、夫々のスケールを何らかの黄金律に対して手動で測定（較正）し、マージの前に夫々の体重測定デバイスのデータに手動で補正を適用することができる。黄金律は、究極又は理想的であると考えられる比較手段又はテストであり得る。説明されるように、較正は、既知の標準規格とのセンサ出力の比較であってよく、一方、正規化は、他のセンサの出力とのセンサ出力との比較であってよい。上記の例では、医者のオフィスにあるスケールは、例えば、既知の正確な値を有する体重の組を量ることにより、較正のためにより容易に利用可能であることができる。オフィスチェアに設置されたセンサは、医者のスケールによる測定と比較したときに正規化され得る。